

## 平成 28 年度例題：免許資格職／専門（精神）

[例題 1] 子ども・子育て支援新制度における保育所、幼稚園、認定こども園に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つあるが、それらはどれか。

- ア. 利用する際には、保護者は市町村の支給認定を受ける必要があり、子どもの年齢と保育の必要性に応じて認定区分がなされる。
- イ. 就労を理由とする利用の場合、保護者は就労時間にかかわらず保育の利用時間を選択できる。
- ウ. 幼保連携型認定こども園は、法律上は「学校及び児童福祉施設」として位置付けられた。
- エ. 新制度に移行する幼稚園、認定こども園の保育料は、子どもの年齢に応じた一律の額となっている。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. ア、エ
4. イ、ウ
5. イ、エ

[正答 2]

[例題 2] 知能に関する理論を提唱したスピアマン (Spearman, C.E.) についての記述として妥当なのはどれか。

1. 知能テストの結果について因子分析を行い、知能は「言語理解」、「空間」、「数」など7種類の異なる基本的精神能力の因子から成ると主張した。
2. 種々の知能検査間に見られる相関関係の分析をもとに、知能はあらゆる知的活動に共通して作用する一般知能因子と、それぞれの知的活動に固有な特殊因子の2種の因子で構成されていると主張した。
3. 知能テストの因子分析の結果から、複数の因子の上に二次因子として流動性知能と結晶性知能を仮定し、知能はこれら二次因子の共通性を説明するさらに上位的一般因子を頂点とした階層構造として表現されたとした。
4. 知能理論には、それを支えるコンポーネント理論、経験理論、文脈理論の三つの下位理論があるとし、それぞれがさらに下位の理論に分かれるという階層的理論体系を提唱した。
5. 従来の知能理論に音楽やスポーツなど芸術・表現領域の知能や、自己と他者の理解という対人的知能を加える重要性を指摘し、多重知能理論を提唱した。

[正答 2]

[例題3] 「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部を改正する法律」が平成25年6月19日に公布され、その一部が平成26年4月1日に施行された。次のうち、この改正により行われたのはどれか。

1. 精神保健福祉センターの設置主体が、都道府県から市町村に変更された。
2. 精神保健指定医の要件について、精神障害の診断又は治療に従事した経験年数が、3年以上から5年以上に引き上げられた。
3. 応急入院が医療保護入院に統合された。
4. 保護者制度が廃止された。
5. 保健所に精神保健福祉相談員を必ず置くこととなった。

[正答 4]